

医学博士のメデイカル・コラム 病気が教えてくれるもの

第48回 世界を美しくするために

「腹が立ったからやった」。傷害事件を起こす加害者の動機のひとつに“怒り”がある。言い方や配慮などの点で、腹を立たせた側に全く非が無かったとは言えないかも知れない。けれど、人に危害を加えるほどまでに、自分の“怒り”を表現したいという衝動の背景にあるものは何だろう。

危害を加えるまでいかになくても、“怒り”という感情の露出は、我々の日常でもよくあることだ。そもそも、何に対しての“怒り”なのか。正義を背景にした、公の“怒り”以外の、個人的な“怒り”のほとんどが自分の存在価値を否定されたことに対する“怒り”だ。失恋、解雇、無視、注意を受けるなど、自分の存在意義、自分という“在り方”を否定されるような出来事に遭遇すると、突如としてキレル。自分を認めない「敵」に対して、“怒り”の機関銃を撃ちまくって自分を護ろうとする。

キレル人達をよく観察していると、「キレ度」と「自己信頼」は反比例していることが分かる。つまり、キレやすい人は、「自己信頼」の欠如がある。通常、「自己信頼」は他の人からの評価に

よって獲得されるものだ。自分の存在価値を認めてくれる人がいるという確信から生まれる。褒められる、尊敬される、愛される、慕われる、感謝される、認めてもらう、信じてもらう…そんな経験がないと、人は不安になり、孤独になり、疎外感を感じ、自信を失って、自己の存在意義に疑問を感じ始める。そんな時、それを確認させられるような“事件”があるとプチっというてしまう。

多くの人が暮らしているこの世界には、眼には見えないけれど、人々の様々な感情や念いが渦巻いている。そんな中で、心のこもった、たった一言の感謝の言葉が、祝福の言葉が、労いの言葉が、誰かの「自己信頼」を回復させ、周囲に存在する人々の心にも光の余波を広げる。そう、簡単なことで世界は美しく変わっていくのだ。

医学博士 木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。
米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開業。



医療法人

きむら内科クリニック TEL 044(981)6617

麻生区五力田2-14-6

きむら内科クリニック 麻生区 検索